

令和2年7月

原水爆禁止2020年世界大会 メッセージ

今年2020年は広島・長崎への原爆投下から75年、世田谷区で1985年に、「平和都市宣言」を行って35年にあたる節目の年です。宣言に基づき核兵器の廃絶と世界に平和の輪を広げていくことを誓い、様々な平和事業に取り組んでまいりました。

しかし、今もなお、世界の様々なところで武力による紛争が起きており、核兵器の廃絶にも至っておりません。

2017年に核兵器禁止条約が国連で採択されたことは、皆様方の活動の成果であると思います。私も、最近の核に関する合意、条約の破棄表明、失効など世界情勢を注視し、唯一の被爆国である日本の自治体の長として区民の皆さんとともに、「核兵器のない恒久的な世界平和の実現」を強く望み、条約の早期批准に向けて引き続き努力してまいりたいと考えております。

「原水爆禁止2020年世界大会」が、核兵器廃絶と世界平和実現に向けた大きな一歩になりますことを心から祈念いたします。

世田谷区長 保坂 展人

皆さま方の長年にわたる熱意ある取り組みに対し、

深甚なる敬意を表するとともに、原水爆禁止二〇二〇年

世界大会の成功をご祈念申し上げます。

豊島区長

高野 之夫

原水爆禁止2020年世界大会メッセージ

「原水爆禁止2020年世界大会」にご参加の皆様をはじめ、関係者の皆様の平和の実現に向けた活動に心から敬意を表します。

今年は、広島と長崎への原子爆弾投下から75年という節目の年であり、両市のような惨禍が決して繰り返されないよう、核兵器廃絶への思いを新たにいたしました。

世界には、今もなお、1万発を超える核兵器が存在します。私たちは、唯一の戦争被爆国として、平和な世界の構築のため、引き続き国際社会に対して、核兵器の非人道性を強く訴えていく必要があります。

中野区では、昭和57（1982）年に「憲法擁護・非核都市の宣言」を行い、平成2（1990）年には「中野区における平和行政の基本に関する条例」を制定し、平和に向けた歩みを着実に進めてまいりました。また、世界各地での核実験に対して直接抗議をし、核なき世界の実現のための意思を強く示してきたところです。これからも、非核宣言自治体として、恒久平和を願う区民の思いを大切にしながら、平和に向けた取組を一層推進してまいります。

結びに、核兵器のない平和で公正な世界の実現を目指す「原水爆禁止2020年世界大会」のご成功を祈念いたします。

令和2（2020）年7月

中野区長 酒井 直人

原水爆禁止 2020 世界大会メッセージ

広島・長崎への原爆投下から75年の節目となる本年の世界大会の開催に当たり、メッセージを申し上げます。

世界の恒久平和と核兵器の廃絶は人類共通の願いであり、唯一の核被爆国である我が国は、引き続き、その実現に力を注いでいく必要があります。

杉並区は、こうした考えに立ち、昭和63年に「平和都市宣言」を行うとともに、二度にわたり「区民の戦争戦災記録集」を発刊（平成5年、28年）いたしました。また、各種の平和関連事業を通して、平和の尊さと戦争の悲惨さを広く訴えてきました。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により多くの平和関連事業が中止となりましたが、今後とも、平和首長会議等との連携を図りながら、世界平和の実現のためにさまざまな取組を実施していく所存です。

結びに、2020年世界大会の共通目標である「平和の波―核兵器廃絶―」に向け、国際的な連帯が一層深まることを心から祈念いたします。

2020年8月

杉並区長 田中 良

原水爆禁止2020年世界大会にご参加の皆さまをはじめ、関係者の皆さまの平和に向けた活動に心から敬意を表します。

市内には、戦時中、東洋一の規模と言われた軍需工場「中島飛行機武蔵製作所」があり、度重なる空襲により多くの尊い命が失われたことや、「長崎・平和祈念像」の制作者である北村西望氏のアトリエがあったことなどから、当市は平和を希求する思いを強く持ち続けてまいりました。

昭和57年に非核都市宣言を、平成23年に当市に初の空襲があった11月24日を「武蔵野市平和の日」に制定するなど、「戦争も核もない世界を武蔵野から」をスローガンに、平和の尊さや戦争の悲惨さを次世代に継承する活動を市民とともに行っております。

今年は終戦から75年という節目の年ですが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、先の見えない状況が続いています。このような状況だからこそ、平和や命の尊さを考えることの大切さを改めて感じています。今後とも、平和意識の醸成を図る活動を、引き続きできることから取り組んでまいります。

世界で唯一の被爆国の自治体として、今後とも、核兵器廃絶、世界の恒久平和の実現を機会あるごとに訴え続けてまいります。

2020年8月

武蔵野市長

松下 玲子

原水爆禁止2020年世界大会メッセージ

広島と長崎への原爆投下から75年目の夏を迎えますが、世界で唯一の被爆国として悲惨な戦争の記憶を風化させることなく、核兵器廃絶・世界平和実現のために、不断の努力をされている貴会の皆様に心から敬意を表します。

平和維持には一人一人の地道な活動の積み重ねにより、核兵器廃絶と恒久平和の想いを次代に継承することが大切です。

武蔵村山市では、昭和59年8月に非核平和都市宣言を行い、戦争の悲惨さと平和の尊さを訴えるため、引き続き7万2千人の市民とともに恒久平和のため不断の努力を続けていきたいと考えております。

全てを一瞬にして潰えさせてしまう核兵器を世界からなくし、恒久平和実現のために活動されている貴会のますますの御発展と原水爆禁止2020年世界大会の成功を御祈念申し上げます、メッセージといたします。

令和2年8月吉日

東京都武蔵村山市長 藤野 勝

原水爆禁止世界大会実行委員会 御中

原水爆禁止2020年世界大会（オンライン）へのメッセージ

「核兵器のない世界」の実現に向けて、世界大会にご参加の皆様、また、開催にご尽力された関係者の皆様へ心より敬意を表します。

広島、長崎に原爆が投下され、幾多の尊い命が失われた第二次世界大戦が終わってから、75年を迎えますが、世界の国の中には核兵器を保有する国、保有しようとする国もあり、未だ、核兵器の脅威は無くなっていません。

東村山市では、昭和62年9月25日に「核兵器廃絶平和都市宣言」を行ない、この間「核兵器廃絶と平和展」等を開催し、平和の大切さ、核兵器使用の悲惨さを強く訴えてまいりました。

今後も、こうした歴史を風化させることなく次世代に語り継ぐとともに、世界の恒久平和実現に向けての努力をしてまいります。

平和な社会の実現は人類共通の願いです。原水爆禁止2020年世界大会（オンライン）が成功し、一日でも早く核兵器のない平和な世界が実現することを祈念しております。

令和2年8月

東村山市長 渡部 尚

2多企企第164号

令和2年7月8日

原水爆禁止世界大会実行委員会 御中

貴団体の核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた取組みについて、心から敬意を表します。

多摩市では、核兵器による悲劇が二度と繰り返されることのないよう、核兵器のない世界を目指し、平和への想いを育み語り継ぐため、平成23年11月1日に、「非核平和都市宣言」を行いました。

今後とも、非核平和都市宣言の精神を普及し、核兵器のない平和な世界を求める行動に取り組んでまいります。

原水爆禁止2020年世界大会のご盛會を、心よりお祈りいたします。

多摩市長 阿部裕行

メ ッ セ ー ジ

貴会における平和運動の取組みについて、心から敬意を表します。

我が国は、世界唯一の被爆国であり、核兵器を廃絶し、恒久平和を実現させることが私達に課せられた責務であります。

本市は、昭和57年4月1日に非核平和都市宣言をして以来、各種の非核平和事業に取り組んでいます。

今後とも恒久平和を祈念し、恒久平和実現のため努力を重ねてまいります。

令和2年7月7日

原水爆禁止世界大会実行委員会 様

小金井市長 西岡 真一郎

原水爆禁止 2020 年世界大会に参加の皆様へ

原水爆禁止 2020 年世界大会の開催、誠におめでとうございませう。

戦争体験者の高齢化などにより、先の大戦を体験した世代が年々減少し、戦争の悲惨さや平和の大切さを若い世代に伝えていく機会が減る中、世界平和を願い、毎年たゆまぬ平和要請行動を継続している皆さまに、心から敬意を表します。

羽村市では、平成 7 年に戦後 50 年を契機として「羽村市平和都市宣言」を行い、平成 24 年には「平和首長会議」に、平成 27 年には、「日本非核宣言自治体協議会」に加入いたしました。

本年は、戦後から 75 年の節目を迎えます。

年々、戦争体験者が少なくなっている中で、過去の悲惨な戦争体験を風化させることなく、様々な世代がこれまで以上に、平和の大切さ、尊さを考える機会となるよう平和啓発事業を実施いたします。

世界各地では未だテロや紛争が絶えませんが、私は、羽村市平和都市宣言の趣旨を尊重しながら、5 万 6 千人の羽村市民とともに、戦争の防止と、被爆国としての悲惨な体験から、核兵器のない世界の恒久平和の実現のため、不断の努力を続けてまいります。

原水爆禁止 2020 年世界大会の成功を祈念申し上げ、私のメッセージといたします。

令和 2 年 7 月吉日

東京都羽村市長

並 木 心

原水爆禁止 2020 年世界大会へのメッセージ

原水爆禁止 2020 年世界大会のオンライン開催にあたり、これまで準備してこられた皆さま、また大会に参加し世界に向けて平和を呼びかけておられる皆さまのご努力に、深く敬意を表します。

2020 年は広島・長崎への原爆投下から 75 年という節目の年ですが、世界各地で今なお紛争や対立が繰り返され、多くの尊い命が犠牲となっています。狛江市では平和宣言都市として、平和の大切さを次の世代へ継承し、平和な社会の実現のため、市民とともにあらゆる努力を積重ねているところです。

原水爆禁止世界大会が今年も大成し、今後ともこの活動が発展していくことを心から期待しています。

2020 年夏

狛江市長 松原 俊雄

原水爆禁止2020年世界大会(オンライン)へのメッセージ

原水爆禁止2020年世界大会に参加の皆さまへ

原水爆禁止2020年世界大会の開催、おめでとうございます。世界平和を
願い、平和要請行動を継続している皆さまに、心から敬意を表します。

原水爆禁止2020年世界大会の成功をお祈り申し上げます。

令和2年7月27日

あきる野市長 村 木 英 幸